

3 . 大日本帝国憲法とその「国体」

・大日本帝国憲法

大日本帝国憲法は 1889 年 2 月 11 日に公布、1890 年 11 月 29 日に施行された。欽定憲法であり、天皇に司法、行政、軍事などの諸権力が集中する「上御一人」の体制をその特徴としている。「国家統治ノ大権」に基づいて天皇を元首、統治権の総攬者としての地位に置いており、それを「国体」と定めていた。帝国憲法の核ともいえる天皇条項は、以下のとおりである。

第一章 天皇

第一条 大日本帝国八万世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二条 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三条 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四条 天皇ハ国ノ元首ニシテ統治権ヲ総攬シ此ノ憲法ノ条規ニ依リ之ヲ行フ

第五条 天皇ハ帝国議會ノ協賛ヲ以テ立法権ヲ行フ

第六条 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七条 天皇ハ帝国議會ヲ召集シ其ノ開会閉会停会及衆議院ノ解散ヲ命ス

この国体のあり方については戦前、戦後と長きに渡って議論されたが、そのハイライトといえるのが天皇機関説論争である。天皇機関説を主張する美濃部達吉と、天皇主権説を説く上杉慎吉が天皇のあり方、国体のあり方について激しく対立した。

・上杉慎吉

略歴： 明治後期から昭和初期を生きた憲法学者。1898 年に東京帝国大学に入学し、穂積八束に師事した。明治 38 年に『帝国憲法』を、39 年には『比較各国憲法論』を公刊する。西欧留学を経て後、1906 年以降には穂積説の後継者を自認して、天皇主権説の護持者となった。そのなかで、自由主義的な思想の下、イエリネックなど西洋の憲法学者の影響を受け、国家法人説を唱えていた美濃部達吉と対立し、天皇主権説対天皇機関説の激しい論争を展開した。大正 3 年には『帝国憲法述義』を、同 13 年には『新稿憲法術義』を公刊、そのほかにも『國體精華乃發揚』を著して天皇主権の国体を守り通すよう一貫して主張を続けた。1916 年には吉野作造の民本主義を批判。軍部が進める天皇機関説排撃運動の理論的、思想的な支柱となった。

・『國體精華乃發揚』のテキストから～「国体」の実態を見る～

上杉慎吉は、戦前の日本で「天皇こそが唯一絶対の主権者であり、天皇を中心とする国体は永久不変のものである」と唱えた憲法学者だが、彼の考えは自由主義思想を排撃する原動力ともなっていた面もある。上杉慎吉を語る上で欠かせないのが、憲法学者・美濃部達吉との間に起こった天皇機関説論争である。

上杉はまず、その著書『國體精華乃發揚』の序文のなかでこのように述べている。

「余の本書の腹稿を作れるは大正五年の秋なり。……顧ふに帝國の大に興るべくして頽勢斯の如くなるは一に國體の精華の大いに發揚せられざるに由る。……如何にしてか之を實現すべき。之余の不肖を省みず本書を著はして國體精華の發揚を提唱する所以なり。而して其の要目とする所凡そ六。

一に曰く、思想を淘汰して舉國一心ならしむ

二に曰く、舉國を總動員し國威の宣揚を期す

三に曰く、舉國皆兵を實現して大に軍國主義を行ふ

四に曰く、資本と労働を統制して舉國經濟を一にす

五に曰く、民生を整理し國粹を保守して舉國一民ならしむ

六に曰く、大権中心の實を擧げ政府を革新し舉國選舉の制を定む

此れ等の事たる皆非常の事たり。」

上杉は序文にあるように、天皇をゆるぎない支柱とした一大国家の成立を夢見、その政治の形態としては全体主義、軍部の主導による軍国主義を構想していた。また、国体の重要性、絶対性について、言論発表を行った背景としては彼の著作の前書きにもあるように、美濃部達吉らのような天皇機関説の論者の活動が、吉野作造のような大正デモクラシー時代を経て民主主義を求める運動として国内でも広まったことが挙げられる。

続いて第一篇「國體の精華」のなかで上杉は次のように述べ、イエリネックらが主張し、美濃部らが国内でも広めた国家法人説を直接的に攻撃してる。

「國體の革命は國家の死滅なり……國家を以て悉く民主國なりと為し、又は所謂る國家と云へる法人に主権存すと為すの西洋の國家學説は、國體の區別を認めずして、君主の存すると否と、皆政體の差異なりと為す、君主の名ありて眞に君主國體なる一も之なきの事實に合するも、立國の基礎と主権行使の形式とを區別せざるは精確の理論に非ず」

こう述べた後で上杉は、日本における「國體」の定義を明確にしている。いわく、

「天皇の主権者に在しますは我が國體なり、大日本帝國は萬世一系の天皇之を統治す、我が國體は純粹なる君主國體なり。」

一切の国民は天皇の意思に服従するべきであり、天皇の意思を制限する者はいない。戦後の昭和憲法が規定した民主主義的な価値観からは遠く離れた主張ではあるが、国内で軍部の発言力が増し、「国体」の護持が追及された当時は、正当な意見として受け入れられていた。